府立西寝屋川高等学校
校　長　　谷廣　進一

令和４年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

「自律」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、他の人のことを考えられる優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。
１　基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
２　キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力を育成する。
３　学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、よりよい社会の構成員を育成する。

２　中期的目標

１　基礎学力の充実
（１）　「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。
ア　ICT を活用した取組みを推進し、公開授業や研究授業を効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、１人１台端末を効果的に活用した授業改善と研究を進める。
※　学校教育自己診断(生徒)における、授業内容のプラス評価を前年度以上とし、令和６年度には 80%を目標とする。
（Ｒ１-69.9%　Ｒ２-75.4%　Ｒ３-76.3%）
※　授業アンケートにおける、授業分析・生徒意識の評価を向上。令和６年度には 85%・82%以上を目標とする。
（Ｒ１-82.3%・79.3%　Ｒ２-84.8%・81.5%　Ｒ３-84.8%・81.5%）
※　学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導の評価を 70%以上とし、令和６年度には 75%以上を目標とする。
（Ｒ１-64.2%　Ｒ２-73.5%　Ｒ３-69.2%）
イ　幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、読書を促進し、さらに有効な図書館活用を推進する。
※　学校教育自己診断(生徒)における、読書状況を改善する。令和４年度は 50%を目標とし、令和６年度には 55%とする。
（Ｒ１-47.9%　Ｒ２-45.0%　Ｒ３-38.6%）
２　キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。
（１）　「総合的な探究の時間」と LHR 等を有機的に連携させ、キャリアパスポートを用いたキャリア教育、人権教育、道徳教育を実施する。
ア　各学年の計画から３年間を見通した計画に取り組み、キャリア教育、人権教育、道徳教育を主軸とした学習を実施する。
※　学校教育自己診断(生徒)における、進路関係のプラス評価を前年度以上の数値を目標とする。(Ｒ１-86.8%　Ｒ２-86.1%　Ｒ３-88.6%)
※　学校教育自己診断(生徒)における、人権について学ぶ機会、いじめなどの対応についての評価を前年度以上とし、令和６年度には 83%以上とする。
（Ｒ１-78.3%　Ｒ２-81.6%　Ｒ３-82.8%）
※　学校教育自己診断(教職員)における、創意工夫を生かした「総合的な探究の時間の評価」を 70%以上とし、令和６年度には 75%を目標とする。
（Ｒ１-64.2%　Ｒ２-61.2%　Ｒ３-74.0%）
（２）　生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。
ア　学年・教科・分掌の連携を図り、進路別のゼミなどを通じて各自の希望進路が実現できる能力を育成する。
※　就職決定率 100%を目標とし、就職・進学講習、各種検定等学習機会の充実。(Ｒ１-98%　Ｒ２-100%　Ｒ３-94%)
３　教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成。
（１）　学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。
ア　生徒会活動、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
※　部活動参加率を令和６年度 55%以上へ向上。令和４年度入学生の部活動参加率 45%以上を目標とする。(Ｒ１-54.2%　Ｒ２-35.3%　Ｒ３-38.1%)
イ　授業・HR・行事におけるあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。
※学校教育自己診断(生徒)における「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を令和６年度には 90%以上を目標とする。
（Ｒ１-80.9%　Ｒ２-84.4%　Ｒ３-85.6%）
（２）　地域との連携の中で、社会性を育成し、各自が、自信と誇りを持てるように、能力と意識を高める。
ア　地域連携活動への参加を促進し、自信と誇りを高める。
※　学校教育自己診断(生徒)における「保護者や地域の人とかかわる機会がある」の評価を令和６年度には 55%以上を目標とする。
（Ｒ１-50.9%　Ｒ２-47.3%　Ｒ３-46.9%）
４　学校運営組織の充実と指導力向上
（１）　授業研究・職員研修を積極的に進め、経験年数の少ない教員の授業力の向上と、学校全体の教育力の向上を図る。
ア　初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。また、計画的な職員研修を実施する。
※　学校教育自己診断（教職員）における、研修の成果に関する項目のプラス評価を令和６年度には 80%以上とする。
（Ｒ１-79.6%　Ｒ２-52.0%　Ｒ３-53.8%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和４年 12 月実施分］	学校運営協議会からの意見
令和４年度全般 本年度の学校教育自己診断「生徒アンケート」では、肯定率が 70%を超える項目が 24 項目中 19 項目で、生徒が本校での学校生活を概ね肯定的に捉えているが、昨年度よりも 23 項目中 19 項目で肯定率を下げた。「生徒アンケート」で５%以上肯定率を下げた項目は、「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」74.8%（-6.8)、「生徒会活動や HR 活動は活発に行っている」62.9%（-6.0)、「学校の図書室を一度でも利用したことがある」32.3%（-6.3)、「先生たちは、お互いに協力し合っていると感じる」79.3%(-5.1)、	【第１回】Ｒ４．６.29（水） ＜議題等＞ ・学校運営協議会について ・令和３年度学校経営計画及び学校評価 ・令和４年度学校経営計画及び学校評価 ・令和４年度年間行事計画 ・令和４年度新入生アンケート結果（43 期生）

府立西寝屋川高等学校

「学校生活について、先生の指導には納得できる」57.5%（-9.4）。とりわけ、生徒指導の納得感について大きく肯定率を下げており、原因を分析のうえ次年度は改善に努めたい。

また、「保護者アンケート」では、21 項目中 16 項目で肯定率 70%を超えており、５%以上肯定率を上げた項目は、「生徒がよく挨拶してくれる」52.8%（+7.8）、「学校は、自分の生き方を考える力を持った子どもを育てようとしている」72.9%（+7.0）、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと感じている」54.6%（+5.5）、「学校の授業参観や行事に参加したことがある」56.4%（+8.4）、「学校は将来の進路や職業について適切な指導をしている」86.9%（+7.3）。コロナ禍の状況変化によるところもあると思われるが、大きな改善が見られる。一方、５%以上肯定率を下げた項目は、「先生は、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっている」71.1%（-5.8）で、「生徒アンケート」で大きく肯定率を下げた生徒指導の納得感との関連も考えられる。人権研修の実施等により、次年度は改善に努めたい。

【学習指導等】

「生徒アンケート」結果では、「学校に行くのが楽しい」73.5%、「先生は、自分が努力したことを認めてくれる」82.8%といずれも高い評価。「授業でコンピューターやプロジェクターなどを活用している」92.9%、「１人１台端末を効果的に活用している」78.9%と、授業における ICT 機器の活用について満足度が高くなっている。しかしその反面、図書室の利用率については年々減少傾向で 32.3%と低迷しており、活字離れは喫緊の課題となっている。1 人 1 台端末など ICT 機器の活用と図書館の活用、読書習慣等をどう関連付けるかが課題。

【進路指導】

「生徒アンケート」結果では、「将来の進路や生き方について考える機会がある」86.6%、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」86.4%と高い評価になっている。近年は就職において 100%近い内定率を維持するとともに、進学においても公募制推薦入試で数名が合格するなど、「キャリア教育」の充実により成果があがっている。就職希望者と進学希望者の切磋琢磨により、今後も多様な進路における生徒の自己実現につなげたい。

【生徒指導等】

「生徒アンケート」結果では、「学校生活について、先生の指導には納得できる」57.5%と、大きく肯定率を下げている。一人ひとりの生徒の状況に寄り添った丁寧な指導を行うことで、納得感のある生徒指導体制を構築する。

また、各学年が遅刻指導に重点的に取り組んだ結果、昨年度に続き遅刻者数は減少傾向にある。年間の遅刻者数 3,000 件以下を目標に今後も取り組み、落ち着いた学校生活を送ることができるよう保護者と協力し、遅刻者指導を継続する。

【学校運営】

「教職員アンケート」結果では、肯定率 70%を超える項目が 25 項目中 18 項目。「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」94.2%など、90%を超える項目も３項目ある。一方、「学校として、部活動の活性化について工夫している」48.1%など、肯定率が５割を下回っている項目もある。部活動体験期間の拡充等により改善を図りたい。

＜委員からの意見＞

・様々な経営計画がある中で、西寝屋川高校にとっての最重要課題は何か。
（学校としては定員割れ回避が喫緊の課題。生徒一人ひとりに寄り添った指導を徹底し、中学校側からの理解を得られるようにしたい。また地元中学校からの支援が必須。広報の機会を最大限に活かしていきたい。）

・生徒のアルバイトについて、学校としてどのようにアプローチするのか。
（家庭の経済状況と関わっている場合もあり、社会性や常識を育むメリットもあるので、高校生としての本分を見失わないよう、マイナス面を教員側からコントロールしていく必要がある。）

【第２回】Ｒ４.11.16（水）

＜議題等＞

・授業見学について
・西寝屋川高等学校のスクール・ミッションについて
・令和４年度学校経営計画の進捗について
・授業アンケート結果（令和４年度７月実施）について
・令和５年度使用教科書の採択について

＜委員からの意見＞

（授業見学について）

・先生と生徒の関係が良好で、距離感がよいと感じられた。
・ICT 機器の活用は、以前より格段に進んでおり、教員が授業でかなり使いこなしている様子が感じられる。一方で生徒が授業中に行う作業が減り、先生の準備の負担が増大しているのではないか。教壇にいる時間が長く、机間巡視の時間が少なくなっている。
・一斉授業が多く、メモをとるなどの作業をする生徒は少ない印象。
・授業中も粘り強く頑張っている生徒と気のままにやっている生徒では、進路指導においても手ごたえが違う。
・楽しそうな授業が多い。

（スクール・ミッションについて）

・「なぜスクール・ミッションが必要なのか」を教員全体で検討し、問題意識の共有を図るべきではないか。
・ミッションをもとに、各教科で何をすべきかを検討する時間が必要である。
・生徒が社会に出るための学習を保障するようなミッションであることを望む。

（令和４年度学校経営計画の進捗について）

・中学校教員や中学生保護者及び中学生への効果的な情報提供の強化を検討・実行すべき。
・部活動の活性化をめざし、アルバイトの取扱いを検討していくべき。

【第３回】Ｒ５．２.15（水）

＜議題等＞

・令和４年度進路状況について
・令和４年度学校経営計画（評価案）について
・令和５年度学校経営計画（計画案）について
・令和４年度学校教育自己診断結果について
・２学期授業アンケート結果について

＜委員からの意見＞

（令和４年度進路状況について）

・進路別のクラス設定の効果はどうだったか。（⇒切磋琢磨する様子がクラス内で見られた。）
・生徒の進路決定に際して、学校からの働きかけはどうだったか。（⇒経済状況等も踏まえ、本人及び保護者の意思を重視している。）

（令和４年度学校経営計画（評価案）について）

・△評価の項目に関しては、継続的な課題として取り組むべき。
・「部活動の活性化」と「働き方改革」は相反しないか。両立するには、抜本的な改革が必要ではないか。
・評価指標が適切かどうかの検討か必要である。

（令和５年度学校経営計画（計画案）について）

・重点項目を設定し、教職員で共有のうえ改善を図るべきではないか。
・めざす学校像の新しい視点として「先生が来たいと思える学校」というのはどうか。
・授業に対し、否定的な保護者は、授業を見学したことがあるのか。

（２学期授業アンケート結果について）

・評価が総じて高い。

（その他）

・定員割れを防ぐためにも、中・長期的な視野で議論を行う必要がある。

府立西寝屋川高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容		評価指標[R３年度値]	自己評価
1 基礎学力の充実	(1)「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善への取組 ア　公開授業・研究授業・授業アンケートの活用 ICT 活用授業の研究 学習到達度の低い生徒への学習指導 イ　読書の促進	(1) ア	・「Next 西寝 (NN 委員会)」委員会が核となり、本校の課題を各学年・各教科・分掌等共有化し、学校全体として取り組む。	(1)ア・各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行い、学校教育自己診断（教職員）による分掌・学年間の連携のプラス評価を前年度以上とする。[76.9%]	・「Next 西寝（NN 委員会)」委員会として広報・生徒指導等の課題に取り組んだ。一斉の会議設定が難しく小グループに分けて議論するなど工夫したが、課題の十分な共有化には至らなかった。学校教育自己診断（教職員）による分掌・学年間の連携のプラス評価は 69.8%(-7.1%)。(△)
			・生徒の現状を捉え、教職員が共通した教育観を持つ（職員研修等、事例発表)。	・学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス評価 80%以上。[76.3%]	・学校教育自己診断（生徒）による授業理解のプラス評価 75.0%。評価指標を下回っているが前年度並みの高い評価を得ている。(○)
			・「わかる授業、充実した授業」の授業方略を導入するため、生徒の課題克服を念頭に、相互の授業見学で多様な授業スタイルを共有する。(互見授業 年２回以上実施)	・授業アンケート「授業分析」「生徒意識」項目のポイント向上。[84.8%・81.5%]	・授業アンケート項目⑦「授業分析」、⑧・⑨「生徒意識」については、昨年度数値より大きく向上し、「授業分析 3.64(91.0%)」、「生徒意識 3.51（87.6%)」(◎)
			・到達度の低い生徒へのアプローチとして、補習も含めた授業外の学習体制を促進。	・学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導のプラス評価 70%以上。[69.2%]	・学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導のプラス評価 71.2%。(○)
			・１人１台端末を効果的に活用し、生徒の学習意欲を高める授業を行い、臨時休業など生徒登校ができない場合の学習支援体制を維持する。	・学校教育自己診断(生徒)「授業で、コンピューターやプロジェクターなどを活用している。による ICT の活用のプラス評価を 90%以上とする。[94.1%]	・学校教育自己診断(生徒)における ICT 活用のプラス評価 92.9%。(○) 授業改善については、この３年間着実に向上しており、生徒の満足度も高い。１人１台端末をさらに活用し、学力向上につなげたい。
		イ	・図書室は学習においても活用し、さらに環境整備を行い、本に親しむ環境を整える。	イ・学校教育自己診断(生徒)における読書状況の図書館利用率 50%を目標。[38.6%%]	・学校教育自己診断（生徒）による図書館利用率は 32.3%と低迷。映画化された書籍やコミックス化されたものを揃えるなど生徒が興味を持つよう工夫しているが、読書離れを止めることができない。(△)
2 たくましく生きる力の育成	(1)３年間の計画的なキャリア教育、人権教育 ア　「総合的な探究の時間」に各教科指導・LHR を連携させたキャリア教育、人権・道徳意識の向上 (2)進路実現の可能性を拡大 ア　各進路希望別ゼミの充実による希望進路の実現	(1) ア	・「HR 等計画委員会」が中心となり、「総合的な探究の時間」の活用に向けて、現状分析と課題把握、今後の方向性と課題解決策の策定に取り組み、希望進路の実現を図る。	(1)ア・学校教育自己診断(教職員)の総合的な探究の時間のプラス評価 70%以上。[74.0%]	・学校教育自己診断(教職員)の総合的な探究の時間の評価は 62.7%（-11.3%)。(△)
			・外部人材やキャリアパスポートの活用、インターンシップ実施等、より広い観点からキャリア教育を行う。	・学校教育自己診断(生徒)による進路関係のプラス評価を前年度以上にする。[88.6%]	・学校教育自己診断(生徒)、進路関係のプラス評価は 86.6%（-2.0%)。前年度以上とはならなかったが、３年生就職オリエンテーションや２年生進学ゼミをはじめとする充実した就職・進学指導を展開。(○)
			・人権尊重の教育を促進し、人権研修（生徒、教職員）を実施し、偏見や差別を許さない教育環境を実現する。また、感染症予防、公衆衛生に関する正しい知識や態度を育成し、新型コロナウイルス感染症に対する偏見や差別がない学校をめざす。	・人権・道徳教育の肯定率を前年度以上にする。[82.8%]	・人権・道徳教育の肯定率は 81.3%(-1.5%)。前年度以上とはならなかったが、３学年とも計画的に人権ホームルームを実施することで、他人を大切にする気持ちを育むことができている（○)
		(2) ア	・進学希望者の意識・学力の向上をめざした教育活動を積極的に進める。	(2)ア学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」に関する前年度肯定率を維持[88.6%]	・学校教育自己診断（生徒）の進路に関するプラス評価 86.5%。(○)
			・進路実現をめざした、「自ら発信する力」の醸成をめざし、授業をはじめ、様々な指導の場面において「挨拶」の励行を推進する。	・学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」の肯定率 75%以上を維持する。[76.8%]	・学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」の肯定率は 72.6%(－4.2%)。(△)
			・進路決定後の進路別の接続を意識した学習の在り方を検討する。	・就職ゼミによる就職決定者に「社会人講座」等の就職前指導を実施。就職決定率 100%をめざす。[94%]	・就職指導は計画的に実施することができた。就職決定率 100%（◎)
3 規範意識と社会性	(1)学校行事、部活動の活性化 ア　集団の中で人と調和しながら活動できる能力の育成 (2)地域との連携	(1) ア	・新入生全員加入期間を複数回実施するなど部活動参加促進の取組みを進める。	(1)ア・１年生の部活動加入率 55%以上を目標。[32.9%]	・１年生の部活動加入率は 32.1%。部活動体験実施など参加促進に取り組んだが加入率は低迷。ホームページを活用し各部の活動を載せ、校内外への発信を行っているが、まだ効果は出ていない。次年度も活性化への取組みを行う。(△)
			・朝の SHR で遅刻防止、新型コロナウイルス感染症対策として生徒の健康把握を行う。	・全体の遅刻回数をのべ 3,000 回以内とする。[2,214 回]	・遅刻回数のべ 3,000 回以内。令和４年度 2494 回。(○)

府立西寝屋川高等学校

を身につけたよき社会の構成員の育成	の中で社会性を育成 ア　地域連携活動参加を促進し、自信と誇りを高める		・交通安全週間の定期的な実施で、交通マナーの徹底を図る。	・PTA と連携し、年間２回の登校時の交通安全指導を実施。学校教育自己診断(生徒)「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価 85%以上。[85.6%]	・PTA との合同による登校時の交通安全指導を３年ぶりに実施。(○) ・学校教育自己診断(生徒)による「社会のルールを学ぶ機会がある」は 83.7%で、成果指標を下回っているが、昨年度と大差なく高い数値と判断している。より一層の向上を望みたい。(○)
			・避難訓練等を通じて防災・災害対応についての意識を高め、自助・共助・公助の大切さを学ばせる。	・学校教育自己診断（生徒）「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」の評価 85%以上。[84.1%]	・学校教育自己診断（生徒）における防犯・防災に関するプラス評価 84.0%で、成果指標を下回っているが、昨年度並みの高い数値と判断している。(○)
			・アルバイト指導の徹底、授業規律の確保等、学習を重んじる姿勢、社会人としての規範を身につける指導を展開する。	・学校教育自己診断（保護者）「家庭への情報提供」に関する前年度肯定率を維持。[73.6%]	・「家庭への情報提供」は 73.5%。PTA メールや学習支援クラウドサービスを通じて情報発信に努めている。(○) ・保護者が求める情報について検討し、ニーズに合った情報を提供できるよう検討を行う。
			・授業・HR のみならず、学校行事の中でも公民教育（主権者教育）を展開する。	イ・学校行事に主体的に取り組む生徒を育成。学校教育自己診断（生徒）「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」の評価を 90%以上とする。[85.5%]	・「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」は 84.5%（-1.0%）で成果指標を下回っているが、昨年度同様 80%以上の高い数値であり、目標が概ね達成できたものと判断している。(○)
		(2) ア	・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事等へ積極的に参加し、地域連携を進めるとともに、生徒の自尊感情の育成を図る。	(2)ア・校区内のあいさつ運動参加（年２回）、近隣小中学校との部活動体験・交流、寝屋川支援学校との交流を通じ、生徒の自尊感情を育成。 学校教育自己診断(生徒)「先生は、自分が努力したことを認めてくれる」の評価を 80％以上とする。[85.9%]	・「先生は、自分が努力したことを認めてくれる」82.8%（-3.1%）(○)
			・行事公開、授業公開により、開かれた学校づくり、誇りを持てる学校づくりを進める。	学校教育自己診断(生徒)「保護者や地域の人とかかわる機会がある」評価を 55%以上とする。[46.9%]	「保護者や地域の人とかかわる機会がある」は 46.9%（+-0）(△) ・校区内あいさつ運動（１回）、近隣中学校との部活動体験・交流、寝屋川支援学校との交流を実施。(○)
				・地域・保護者に向けた授業公開を年間２回実施し、開かれた学校づくりを進める。［１回］	・保護者向け授業公開を１回実施。評価指標の２回実施には至っていないが、コロナ禍において昨年度並みに１回実施できたことを評価。(○)
４ 学校運営組織の充実と指導力向上	(1)経験年数の少ない教員の指導力の向上 ア　初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。 職員研修を実施し、学校全体の教育力の向上を図る	(1) ア	・校内の初任者育成研修「スタスタ研」、授業研究、ケース研究の機会を拡大し、授業力の向上、生徒指導力の向上、教育相談技術の向上を図る。	(1)ア・学校教育自己診断（教職員）による研修成果の共有」の評価を 80%以上とする。[53.8%]	・学校教育自己診断による「研修成果の共有」は 55.8%(+2.0%)。(△) 学校としては教職員がオンデマンドで研修（学習）できるコンテンツを導入し、授業力向上、教員資質向上に対応している。
			・生徒の抱える課題、指導の在り方などについて共有する場を設ける。現状の改善に向け、「チーム西寝屋川」として取り組む体制を整える。そのための職員研修を実施する。	・学校教育自己診断（生徒）、相談に関する評価を前年度以上にする。[71.4%]	・学校教育自己診断（生徒）の相談に関する評価は 71.1%で昨年度とほぼ同数値。学校生活への不安について、生徒が相談しやすい雰囲気を作ることができている。(○)
			・授業アンケート、学校教育自己診断のデータを用いて、各教科内で教育・学習課題の共通理解を図る。	・職員研修を計画的に年４回以上実施。(防災・人権・授業改善等)［５回］	・アレルギー対応・人権・生徒対応等に関する研修を計５回実施。(○)
			・各教科 Can-do-list の見直しを行い、「観点別学習状況の評価」を効果的に行うための改善を行う。	・各教科 Can-do-list を更新。「観点別学習評価」について適切に行うことができるよう改善に努める。	・各教科 Can-do-list の更新には至っていないが、「観点別学習状況の評価」を適切に行うことができている。(○)
			・働き方改革の促進。部活動基本方針に則り、ノークラブデー等の徹底。ICT 機器を用いた教材作成、データ共有による効率的な授業準備。	・業務改善、各部活動、ノークラブデー実施により 40 時間超の時間外勤務者数を前年度よりも 10%削減をめざす。[延べ人数 156 人]	・40 時間超の時間外勤務者数 10%削減に取り組んだが、延べ人数は 253 人となり、削減は達成できなかった。業務改善を引き続き行い、40 時間超の時間外勤務時間削減に取り組みたい。(△)